

最近のブラジル為替相場の下落について

大和証券投資信託委託株式会社

10月28日(現地)のブラジル・レアルの為替相場は対円で51.00円となり、現地27日の52.80円から約3.4%の下落しました。これは、レアルが対米ドルで約1.94%下落したことに加え、円が対米ドルで1%を超える上昇となったことによります。

このようなレアル下落の背景として、ここもと持ち直し機運が高まっていた米国経済に対しやや慎重な見方が見られたことと、今月に入ってからブラジル・レアル高に対し利食いの動きが見られたことが挙げられます。

米国経済指標では、10月の米国消費者信頼感指数が市場予想に反して低下したことや、9月の新築住宅販売件数が予想外の落ち込みとなり、さらに8月分も下方修正されました。これを受けて、米国株式市場の下落やコモディティ価格も下落することとなりました。

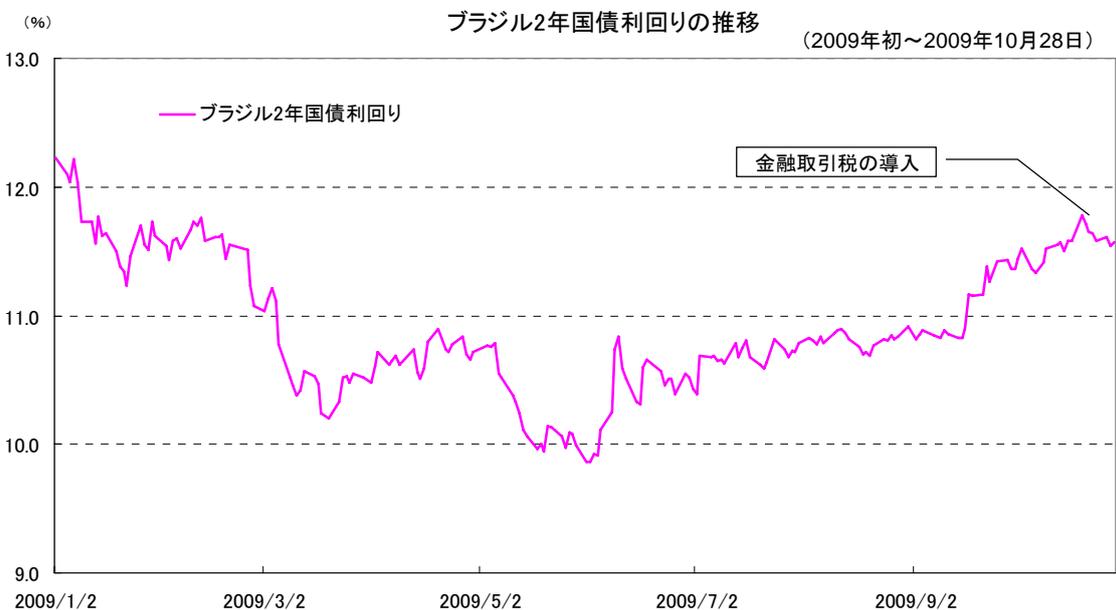
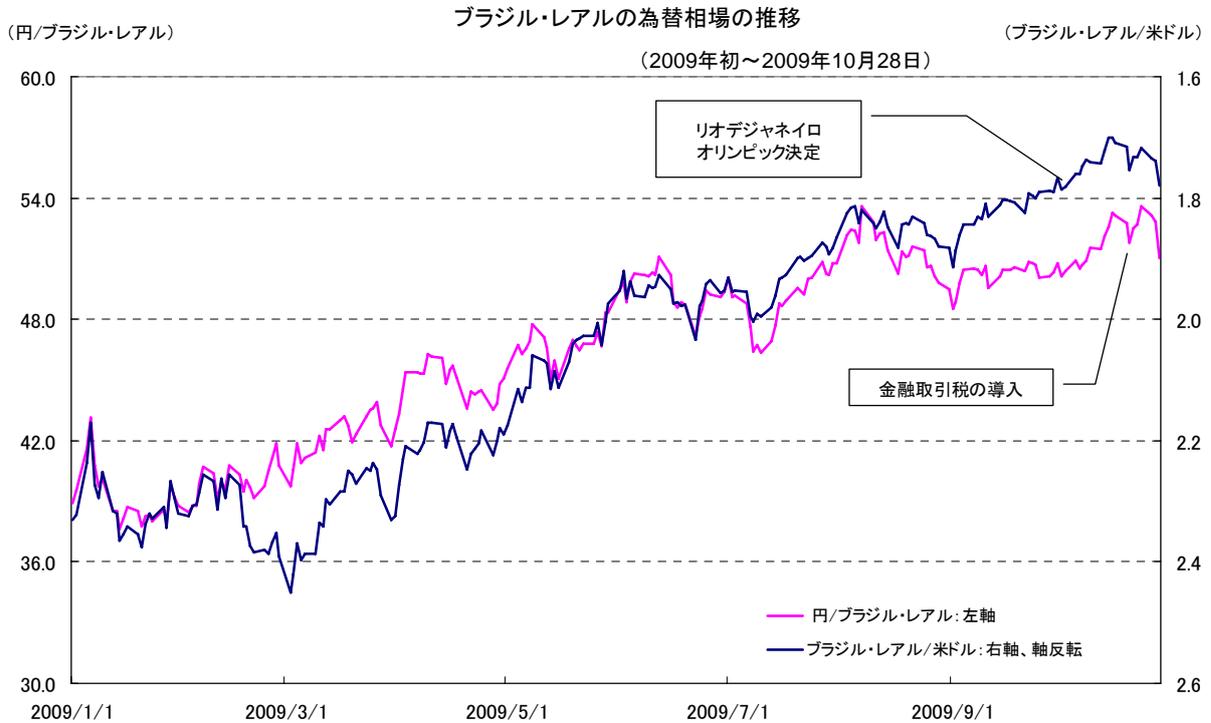
ブラジルにおいては10月始めに2016年リオデジャネイロ・オリンピックの開催が決定し、ブラジル・レアルへの選好が高まりました。このようなレアル高に対しブラジル政府は、現地10月20日に金融取引税の税率を0%から2%へ引上げ、急速なレアル高に対応する政策を導入しましたが、レアルの為替相場はきわめて短い調整にとどまりました。しかし、米国経済の先行き懸念の広がりからリスク資産を圧縮する動きが進み、ブラジル・レアルも下落することとなりました。

一方、ブラジルのファンダメンタルズにおいては、良好な状態を保っていると考えられます。2009年第2四半期GDP成長率は前期比+1.9%と、第1四半期の-1.0%から改善しており、最近発表されたブラジル中央銀行が発表するブラジルの民間アナリストの予想値集計では、2009年のGDP成長率は前年比プラスに転じ、2010年は5%に近い成長が予想されています。国内では9月の失業率が7.7%となり8月の8.1%からさらに低下しています。また、直近のインフレ率はブラジル中央銀行のインフレ目標値の中心値である4.5%を下回った水準で推移しており、インフレ懸念が台頭する気配は見られません。

このような、経済ファンダメンタルズから見れば最近のブラジル・レアルの下落は、10月初めの水準に一旦調整した水準となっており、リスク回避的な動きの中での一時的なものと考えられます。

ブラジル国債においても、経済成長期待の高まりから小幅の利回り上昇にとどまっており、ブラジル国内からの資金の流出は限定的と見られます。

以上



(出所)ブルームバーグより大和投資信託作成

お取引にあたっての手数料等およびリスクについて

手数料等およびリスクについて

- 株式等の売買等にあたっては、「ダイワ・コンサルティング」コースの店舗（支店担当者）経由で国内委託取引を行う場合、約定代金に対して最大 1.20750%（但し、最低 2,625 円）の委託手数料（税込）が必要となります。また、外国株式等の外国取引にあたっては、現地諸費用等を別途いただくことがあります。
- 株式等の売買等にあたっては、価格の変動による損失が生じるおそれがあります。また、外国株式等の売買等にあたっては価格変動のほかに為替相場の変動等による損失が生じるおそれがあります。
- 信用取引を行うにあたっては、売買代金の 30%以上で、かつ 30 万円以上の委託保証金が事前に必要です。信用取引は、少額の委託保証金で多額の取引を行うことができることから、損失の額が差し入れた委託保証金の額を上回るおそれがあります。
- 非上場債券（国債、地方債、政府保証債、社債）を当社が相手方となりお買付けいただく場合は、購入対価のみお支払いただきます。債券は、金利水準の変動等により価格が上下し、損失を生じるおそれがあります。外国債券は、金利水準の変動に加え、為替相場の変動等により損失が生じるおそれがあります。
- 投資信託をお取引していただく際に、銘柄ごとに設定された販売手数料および信託報酬等の諸経費、等をご負担いただきます。また、各商品等には価格の変動等による損失を生じるおそれがあります。

ご投資にあたっての留意点

- 取引コースや商品毎に手数料等およびリスクは異なりますので、上場有価証券等書面、契約締結前交付書面、目論見書、等をよくお読みください。
- 外国株式の銘柄には、我が国の金融商品取引法に基づく企業内容の開示が行われていないものもあります。こうした銘柄については、外国証券内容説明書をご覧ください。

商号等 : 大和証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第108号

加入協会 : 日本証券業協会、社団法人 日本証券投資顧問業協会、社団法人 金融先物取引業協会